

隔離圃場試験の意義と留意点

筑波大学 佐藤 忍

1) 隔離圃場試験の目的

* 生物多様性にかかる圃場レベルでのデータの取得

1. 国内で開発された作物 → 基礎データの取得
2. 海外で開発された作物 → 輸入国の隔離圃場での試験データを追加

2) 海外で開発された作物を日本で追加で隔離圃場試験する意義

* 日本に特有の環境に起因するデータを取得

3) 海外の圃場試験データのトランスポートビリティーを検討する際に考慮すべき点

1. 海外の圃場試験では検出されなかった対照との差異が、日本の隔離圃場試験で検出される可能性があるか
2. 日本に特有の差異は、宿主と導入遺伝子を考慮して、3つの評価エンドポイント(競合、有害、交雑)に影響する可能性があるか
3. 栽培か加工利用かを勘案しつつ圃場の立地や規模を考慮
4. 農耕地(栽培)や輸送経路周辺(こぼれ落ち)における環境と暴露量(栽培規模)を考慮

4) 隔離圃場試験に関わる環境要因のうち日本で特に考慮すべき要因

- ・気象(特に降雨)
- ・土壌(微生物相を含む)
- ・生物(特に国内で開発された作物については、訪花昆虫等の基礎データが求められる)

注: 野生種と宿主の交雑にかかる試験は隔離圃場外

5) 「有害物質の産生性」にかかる試験において考慮すべき条件

試験内容

- ・すき込み試験
- ・後作試験(ポット、(圃場))
- ・土壌微生物相試験(糸状菌、細菌、放線菌)

試験に供する土壌の由来

- ・隔離圃場
- ・(ポット栽培)
- ・(海外の圃場)

- COI Disclosure Information
 - 筑波大学 生命環境系
 - 教授 佐藤 忍
- I have no financial relationships to disclose